

地域解決レンジャー

持続可能な世界を学び、行動を起こし、世界をよりよく変えていく、行動者を育てるために。
生徒にとって一番身近な地域の課題をテーマに SDGs を考える。

目指す生徒の姿 ジブンゴト化できる人

予測不可な時代、複雑に絡み合った問題を、自分の事として何が出来るか考え、行動できる

これからの
世界では
必須の力！



他人事として考える人

- ○○のせいだ / ○○が悪い
- 自分には無理 / ○○の責任
- ○○が何とかしてくれる



ジブンゴト化できる人

- ✓ なんとかしたい！
- ✓ ジブンにできることは？
- ✓ どう貢献できるだろう！

？

課題を
見つけたとき

指導ポイント



何かを変えられると
いう実感を持つために
身の回りの出来事を
ジブンゴト化する。



ジブンゴト化のための
メガネ（モノの見方）
として SDGs を活用
する



行動者となるために、
問題の把握のみならず
アクションプランを
立案する。

アプローチ



1 SDGs という
道具を知ろう



2 身の回りの
SDGs に関する
ものを見つけよう



3 地域の課題を
見つけよう



4 地域の課題を
分析しよう



5 プロジェクトを
考えよう

2班 作成者の言葉



栢之間 倫太郎 新渡戸文化小学校

JICAに関わるようになって学んだのは、教師とは「世界の創り手」であるということ。この本は、生徒と共により良い世界をつくろうとした教師たちの記録です。あなたの世界をつくるヒントが見つけられますように。

須賀 与恵 川口市立小谷場中学校

この指導案を手にとった先生方が、目の前の子どもたちの実態に合わせ、カスタマイズしやすいように工夫して作成しました。最後は先生方の「愛」をこめて、「世界にただ一つしかない授業」を創り上げていきましょう。



中村 太郎 湯沢町立湯沢中学校

この指導案で目指したことは、SDGsって「難しいことじゃないんだ」と生徒・教員が実感する機会の提供です。一人で頑張るのではなく、いろんなアイデアを参考にして、持続可能な授業になることを願っています。

長田 のっこ 上智大学教育学科

大学生ながら現役の先生方と本指導案づくりに携われたことは、非常に貴重な経験でした。熱い想いをもった先生方がいれば、世界は変わると思いました。この指導案が「想い」を膨らませるきっかけになれば嬉しいです。



輪湖 みちよ 板橋区立板橋第三中学校

「中学生の力を社会に広めたい!」と思い JICA の研修で学びました。教室と社会がつながる学習活動が生徒・教員・地域社会、いずれは世界を変える力になると信じています。目の前の生徒と一緒に始めてみませんか。

黒川 八重 東京女子学園中学校高等学校

先生のちょっとしたアドバイスや声かけで、生徒たちは自分自身がより良い社会の造り手になれることに気づき、行動者になっていくと JICA 研修を通じて感じています。この指導案が先生方のアドバイスの参考になったら嬉しいです。



指導案に込めた思い

SDGs の認知度が上がり、指導要領にも“持続可能な世界”という言葉が明記された今。どのようにそのような教育を実現しようかと試行錯誤している学校も多いと思います。私たち自身も、JICA の主催する教師海外研修を通し、多くの学びや気づきを得た上で、深く悩みながら日々実践を続けています。

教育界には、国際理解教育、開発教育、ESD など様々な授業手法があり、それぞれに脈々と受け継がれる素晴らしい理念や特徴があります。しかしその手法の目的自体には、互いに非常に近いものがあるのではないかと、私たちは考えています。それは「行動者を育てる」ということです。学んだ上で、行動を起こし、世界をよりよく変えていく。机の上の勉強にとどまらず、社会に触れ、実際に行動することこそが、これからの教育の重要なポイントなのではないでしょうか。

この指導案では、実際に生徒主体でプロジェクトを起こすためのヒントが記されています。テーマは「地域をより良くする」。自分たちに一番身近な“地域”を、SDGs も視点の1つとして活用しながら分析し、プロジェクトを考えます。自分たちの力で地域をより良くできたと感じたとき、生徒の心には大きな変容が起こるはずです。

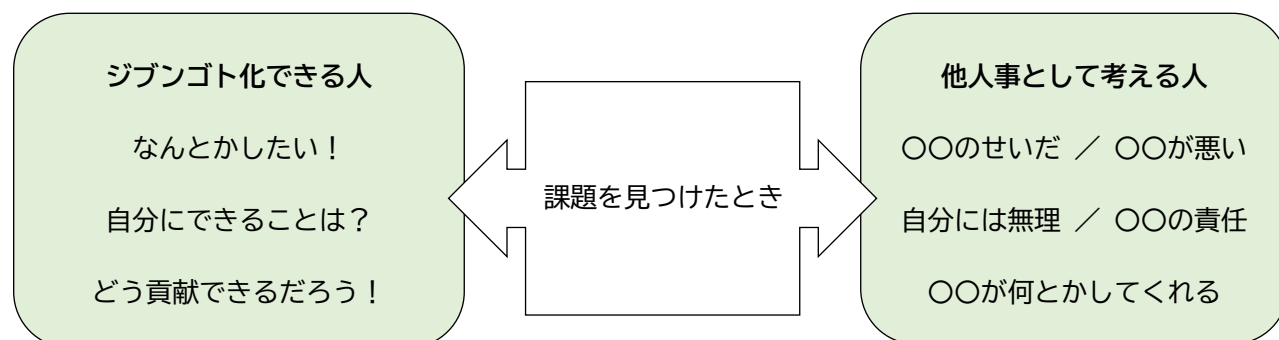
「自分たちが学んだことで、世界が変わった」

そんな気づきを得た生徒たちが、この世界をより良くする行動者となっていくことが、この指導案の最上位目標です。出来る限り再現しやすいような作りを意識して作成しましたので、一人でも多くの方にご活用いただければ幸いです。

ジブンゴト化とは？

ジブンゴト化する力は、これからの世界では必須になると思います。予測不可能な時代と言われる現代では、様々な問題が複雑に絡み合っています。そんな時代に「〇〇のせいだ」というように他人事として問題を捉えてしまえば、最後は自分にしっぺ返しが返ってくるでしょう。

まずは学校や家庭、地域のような身近な存在の課題をジブンゴト化するのが重要なのではないのでしょうか。そしてまずは、生徒に求める前に私たち教師がジブンゴト化を身につけることが重要です。学校に対して感じている不満や不安を、誰かのせいにはせずに、自分は何が出来るかを考え、行動する。私たち自身が行動者となるのが、生徒にとって一番の学びかもしれません。



課題と今後の展望

【第1段階】大枠の完成（現段階）

生徒が地域をより良くするプロジェクトを生み出す流れを、事例とともに指導案化しています。すぐに真似できる汎用性の高さを念頭に起きつつ、実際にやってみるとどのようになるのかがわかるように、写真などで実践事例をのせています。また、今後の幸せな世界の1つの指針であるSDGsを切り口としていることもポイントです。

* 現段階での課題

- ・ すぐに真似できることを理想とした上で、さらに **JICA 教師海外研修 OBOG としてのオリジナリティ**を出していきたい
- ・ 総合的な学習の時間を軸として、地域をより良くするために**教科を手段として学んでいく**流れをデザインしたい

【第2段階】オリジナリティの追加

この指導案は教師海外研修を経験した教員が、JICA との共同プロジェクトとして作成しているものです。JICA には長年の国際協力の経験によって蓄積された資料や教育メソッドが豊富にあります。この段階では、それらを指導案に追記していき、以下のことを実現していく予定です。

- ① SDGs を切り口に世界や地域の幸せを考えていく段階で、JICA の資料を有効活用していき、より“本物感”をもって生徒がSDGs 的概念に触れられるようにする。
- ② JICA が世界各国の開発援助をしていきたくことで蓄積した開発のメソッドを、地域でのプロジェクトを企画・運営していく際に活用できるような形で紹介する。

【第3段階】教科との紐付け

総合的な学習の時間で地域をより良くするプロジェクトを行うと、生徒の中から「知りたいこと」や「調べたいこと」が出てきます。生徒のその意欲を引き出し、様々な教科の単元を調整して配置することで、様々な教科を横断するダイナミックな学びを実現することができます。

この段階では中学校の様々な教科における単元と、総合的な学習の時間の指導案を紐付け、より横断的な指導案に発展させていきます。プロジェクトを進行させる中で、教科的な基礎知識も身につくという、PBL（プロジェクトベースドラーニング）的な進行の仕方を提案していく予定です。

指導案の構成

最上位目標

自分の地域をより良くすることを通して、持続可能な世界をつくる行動者に変容する。

学びの流れ

STEP 1：SDGs という“道具”を知ろう

SDGs という言葉と価値観の導入段階です。

最終的にプロジェクト立ち上げられるように、ジブンゴト化しやすい工夫をしています。



STEP 2：身の回りの SDGs に関するものを見つけよう

身の回りを SDGs の視点で分析する段階です。

発表し合うことで SDGs の理解と、自分たちとの関連の深さに気づいていきます。



STEP 3：地域の課題を見つけよう

実際に地域に出て、魅力や課題を見つけていく段階です。

実際の事例とともに、様々な教科との連携例が紹介してあります。



STEP 4：地域の課題を分析しよう

見つけた課題を分析して、その背景や原因を考える段階です。

システム思考的な考え方も活用していきます。



STEP 5：プロジェクトを考えよう

分析した課題を解決するために、プロジェクトを生み出す段階です。

いくつかの取り組みやすいアクションが紹介してあります。

【STEP 1】SDGs という“道具”を知ろう

実施の目的：SDGs の概念を伝え、生徒にとって身近な目標とする。

生徒の目標：幸せな世界について他者とともに考えを深めることができる。

SDGs の概念を理解し、自分たちにも何かできそうだと感じることができる。

* 事前準備：2色の付箋、模造紙、掲示用の SDGs

所要時間	活動内容
5 分	“幸せ”って何だろう…？ 【問い】 今、あなたは幸せですか？ (例) ○%という形で手を挙げてみる、数直線上に表してみる 【問い】 今この街は幸せですか？ 【問い】 今この世界は幸せですか？ あくまでアンケート 答えは直感的で OK です 悲観的な答えがでてきてしまっても、 良い意味で次のワークにつなげましょう
45 分	幸せな世界ってどんな世界…？ 【ワーク】 幸せな世界を考えよう ・ブレーストーミング 幸せな世界を「○○がある世界」「○○がない世界」という形で付箋に書く ・マインドマップ 個人で書いたものをチームでもちより、 模造紙に貼っていく チームで発表するのも いいかもしれません！ “世界中の全員にとっての幸せ”と 前置きをして、条件を整えます 【知る】 世界にある様々な課題 ・ JICA 地球ひろば HP「世界の課題を考える写真」の写真を見て、 世界に存在するいくつかの課題を知る。 (https://www.jica.go.jp/hiroba/teacher/material/practice.html)  写真を見せたら、それに関連しそうな“幸せの要素” が自分たちの付箋にあるか聞き、写真を自分たちの 考えに引き寄せてみましょう。 

所要時間	活動内容
40 分	世界の共通言語 “SDGs” 【知る】 国連がリストアップした “SDGs” という目標がある ・ 国連が何年もかけて世界中の “ 幸せ ” を取りまとめた SDGs の存在を知る ・ Sustainable Development (持続可能な発展) の意味を知る ・ 国連の動画「Home」を見る (https://www.youtube.com/watch?v=8eJD0BuNN1Y)  SDGs が国連で発表される際に流された動画です。 非常にスタイリッシュなので、印象に残ります。 【ワーク】 どんな目標だろう？ ・ 順に掲示される SDGs のイラストの内容を、イラストから予想する → 自分たちのマインドマップからも考えてみる  【ワーク】 自分たちの幸せも当てはまる？ ・ 自分たちのチームのマインドマップにある付箋を、関連しそうな SDGs の近くに貼っていく ・ 当てはまらない付箋 → まとめておく ・ 多いところや少ないところ → なぜそうなったのかを考えてみる 付箋の少ないところは ジブンゴト化しにくい 目標とも言えます
10 分	結局 SDGs って何なのだろう 【問い】 どうして自分たちの考えた “ 幸せ ” と SDGs は似ているのだろう？ (例) SDGs は、国連が自分たちと同じように、世界中の人々と共に「幸せとは？」を考えてつくったもの → 偉いものでも凄いものでもなく、当たり前目標だから自分たちの意見ともとても似ている 付箋が多くに貼られて いることを強調します 【問い】 どうして SDGs に当てはまらない “ 幸せ ” も出てくるのだろう？ (例) SDGs は 70 億人のグローバルゴール (共通目標) → 当てはまらない目標もあり、決して完璧ではない これをもとに、18 個目の目標をつくる ワークにつなげることもできます 【問い】 自分が一番「気になる」ゴールはどれだろう？

【STEP 2】身の回りの SDGs に関するものを見つけよう

実施の目的

- ① SDGs って「そんな難しいことじゃないんだ」と生徒・教員が実感する機会を提供する。
- ② 身の回りには SDGs に関係することがたくさんあることを知り、アンテナを高くする。

生徒の目標

- ① SDGs に関する必要な情報を取捨選択し、パワーポイントを作成できる。
- ② SDGs のそれぞれの目標を理解し、わかりやすく人に伝えることができる。
- ③ 友達の発表を聞き、SDGs についての理解を深めることができる。

* 事前準備：SDGs について基礎知識を身につけておく

資料①～資料④を印刷しておく（STEP2 の最後に掲載）

<第1段階>

活動内容
世界の課題を考える あくまで導入 答えは直感的で OK です 【問い】 1 日いくらあったら生活できますか？ →日本の 2 人以上世帯平均額は 1 か月約 31.5 万円 1 人あたり 1 日 5,000 円程度 【問い】 1 日 1.9 ドル（約 210 円）で暮らす人は世界でどれくらいいるでしょう？ →「約 7 億 6000 万人」（子ども：3 億 8000 万人） 【問い】 その日食べるものがない、明日以降も食べるものに不安を抱えている人（飢餓状態）の人数は？ →「約 8 億 2000 万人」 【問い】（賞味・消費期限の過ぎた食品や給食の残菜の画像を提示する）みんなならこの食べ物、どうしますか？ →「捨てる？」 【問い】 世界では 1 年でどれくらいの食料が捨てられているでしょう？」 →「17 億トン」 ※世界で生産される食料の 3 分の 1 にあたる 【問い】 食料生産などの目的による人間の開発によって、1 年間でどれくらいの森林が失われているでしょう？ →「約 330 万ヘクタール（1 分間に東京ドーム 1.3 個＝教室約 800 個）」 導入として“SDGs に関する世界の課題を実感させたいので、問いから 2～3 個選んで使用してもいいかもしれません。

活動内容

この世界は持続可能…？

【問い】 このままの調子で暮らしていくと地球の 10 年後・20 年後、50 年後はどうなっていると思いますか？

(例) 「地球に住み続けることができなくなる」「限界を迎える」「絶滅してしまう」
「取り残される人が出てくる」「格差が広がってしまう」 など

持続可能ではない！タイムリミットが近づいている！
という感覚を押し付けがましくなく理解させるために、
前回自分たちが考えた“幸せ”を思い出すのも効果的です。

“SDGs” の内容説明（確認）

【問い】 様々な格差や地球環境の課題をそのままにして、誰もが「幸せ」になれる世の中は実現できるのだろうか？

→ 「そこで発表されたのがこの SDGs です！」 「どんな内容か覚えていますか？」



SDGs は民主主義の結果・矛盾の産物。
物質的な進歩主義は経済成長と
公平のバランスを保てなかった！

解説を多くしすぎると、逆効果になることもあります。
実際に調べたり行動したりしながら学ぶことをおすすめします

(参考資料)

- ・ 資料① 【SDGs とはなんだろう？】
- ・ 追加資料 【私たちがつくる持続可能な世界～ SDGs をナビにして～】
ユニセフ (<https://www.unicef.or.jp/kodomo/sdgs/kyozai/dl/SDGs.pdf>)



めあてを知る

SDGs のゴールを一つ選び、プレゼンをつくることを通して…

【目標】

- ① 調べて、つくる (必要な情報を取捨選択し、パワーポイントを作成できる。)
- ② 伝える (SDGs の目標を理解し、わかりやすく人に伝えることができる。)
- ③ 深める (友達の発表を聞き、SDGs についての理解を深めることができる。)

SDGs を調査しよう！

【ワーク】SDGs のプレゼン資料を作成しよう！

- ①自分が調べる目標を 17 の目標から選ぶ
- ②目標の説明（世界や日本の問題を例に）
- ③目標に取り組んでいる企業・団体・市町村
- ④自分たちにできること

2 コマ以上は必要です

偏りを教師が目標をそれぞれ均等に振り分けることも可能ですが、興味を優先することも重要です。

（参考資料）

- ・日本ユニセフ協会 SDGs CULB (<https://www.unicef.or.jp/kodomo/sdgs/>)
- ・佐藤真久『未来の授業 私たちの SDGs 探究 BOOK』 宣伝会議、2021 年
- ・佐藤真久『未来の授業 SDGs ライフキャリア BOOK』 宣伝会議、2019 年



発表して、みんなに伝えよう！

【発表】

資料②【発表態度について】に注意して、みんなに発表する

発表は 17 の目標すべて聞くことが理想ですが、時間や人数に応じて発表の形式を工夫する必要があります。



すべての目標がつながっている

【発表】プレゼンを聞いての感想を発表する

事前に発表内容に、「その他の SDGs とのつながり」などの項目をいれておくのもおすすめです

【問い】「17 の目標」を聞いて気付いたことがありますか？

- 17 の目標はそれぞれ内容が異なっているように見えるが、そうではない。
- ・ほかの目標と共通する課題をもつものもあり、互いに関わり合っている。
- ・自分のアクションである課題を解決すると、いくつもの課題の解決につながる可能性も

<第2段階>

活動内容

事前課題「身近な SDGs を見つけてこよう」

【課題】 資料③、資料④をもとに「身の回りの SDGs に関する“画像”」を用意する

持ち帰り可能なタブレットで撮影するとその作業がスムーズに進みます

実際につくってみよう！

【作成】それぞれの「身近な SDGs」をつくろう

資料③の例を参考に Word 等の文章作成ソフトを使用し、作成する

画像を用意できなかった生徒には引用のルールを伝える

*生徒が事前に理解しておきたいこと

- ①画像の挿入にやり方
- ② SDGs の 17 の目標のロゴマークの保存→貼り付け

掲示して鑑賞しよう！

【掲示・鑑賞】

- ・完成した生徒から掲示していく
- ・互いの作品を見合い、視点を広げていく

“いいね！”マークなどを貼れるようなスペースがあってもいいです！



*作成した資料はできるだけ多くの人（生徒・先生・保護者・来校者など）の目に触れてほしいため、多くの方が見られるような場所がおすすめです。

SDGs って「そんな難しいことじゃないんだ」

【問い】身近な SDGs を探してみてもうでしたか？

- ・ SDGs の視点で探してみるとたくさんのモノが見つかった。
- ・ 最初は難しい感じがしたけど、身の回りにはあふれていることが分かった。
- ・ ひとつの目標だけでなく、様々な目標がつながっていることが分かった。

【問い】今回の授業で①～③の目標のどれか一つでもいいので感じられたか

- ① SDGs って「そんな難しいことじゃないんだ」と実感できた
- ②身の回りには SDGs に関係することがたくさんあることを理解できた
- ③これから SDGs に対するアンテナを高くできそうか

どんな形式でもいいので、各自がふり返ることが出来るようにまとめをするのがおすすめです。

* STEP2 で使用されている資料①～資料④は【資料コーナー】に掲載してあります。
必要に応じてご活用ください。

< 補 足 >

★ JICA 授業実践 学習指導案 プロジェクト型授業案の紹介

「世界の未来と日本の役割」 岡留 真吾 先生

https://www.jica.go.jp/hiroba/teacher/case/jhqv8b0000035b0h-att/society_03.pdf



「世界に学ぶ ～届け幸せのメッセージ～」 野々山 尚志 先生

https://www.jica.go.jp/hiroba/teacher/case/jhqv8b0000035b0h-att/overall_03.pdf



※ STEP2 導入「世界の課題を考える」の場面で、岡留先生や野々山先生が実践した『ワークショップ版 世界がもし 100 人の村だったら < 第 6 版 >』（2020、開発教育協会）を参考にしてみてください。

【STEP 3】地域の課題を見つけよう

実施の目的：SDGs の視点で身近な地域をとらえ、現地調査等を通して自分との関わりや多様性に気付く

生徒の目標：SDGs の視点で地域の魅力や課題をとらえ、表現することができる

* 事前準備：身近な地域の地図やガイドマップ、ふせん（小・中） ★補足 1

所要時間	活動内容（1 / 2）
15 分	“身近な地域の魅力”は何だろう？ 【問い】 ○○（身近な地域）の魅力といえば？ （板書）イメージマップを書いていく 【ワーク】 地域の魅力を地図に書き込む ★補足 2 ・地図で通学路や良く行く場所・お気に入りの場所を見つける ・ふせん（中）に好きな理由や場所の説明を書き、地図に貼る 例）川沿いの桜並木に癒される  生徒の興味・関心が第一です。 好きな・よく行く場所など助言を しながら、書いていきましょう。
15 分	身近な地域の魅力と SDGs の関わりは？ 【問い】 お気に入りの場所はどの SDGs と関わっている？ ・個人が書いた地図をグループで発表する （発表を聞きながら） ・関係すると思った SDGs の番号をふせん（小）に書く （発表が終わったら） ・感想を伝えながら、友達の地図にふせん（小）を貼っていく 川沿いの並木に癒される 商店街に大勢の人が来ている 6 番、14 番 11 番、12 番  地域の魅力を SDGs の 視点でとらえなおします

所要時間	活動内容（1 / 2）
20 分	野外調査やインタビューで何を見たい・聞きたい？ 【考える】 野外調査やインタビューでもっと知りたい地域の魅力 ・ 地図を見ながら、野外調査で見たい場所・経路やインタビューしたい人・ことを考える 例) 「いつもお惣菜を買うお店はいつからあるのかな？」 「なぜ、たくさんのお総菜屋さんがあるのにどのお店も混んでいるの？」 「売れ残りを出さないようにどのような工夫をしているの？」 ・ 書き終わった人から地図を黒板に貼っていく

★補足3

所要時間	活動内容（2 / 2）
50 分	“身近な地域の魅力”を調査しよう！ 生徒の興味関心を大切に、生徒が主体的に調査できるような働きかけを意識しましょう 【紹介】 講師紹介 ・ 講師紹介後、グループごとに野外調査やインタビューを行う ★補足4 【調査】 講師との野外調査やインタビューを通じて地域の特色を再発見する ・ 1 時に作成した地図を活用する ・ 写真撮影やインタビュー記録を行う ★補足5 例) 「川沿いの遊歩道・堤防は洪水から私たちを守ってくれている」 「地震の時、高速道路はどうなるの？」 「観光客の人を呼ぶ工夫もしているけど、文化のちがいやマナーの問題もある」 「町内会の行事は若い人が少なくなって大変」    【振り返る】 野外調査やインタビューを通して気付いたこと ・ 講師の方にお礼と感想を伝える ★補足6 専門家や地元の方に話を聞くことで、気付いた地域の特色を STEP 4 で分析し、地域の課題解決へとつなげていきましょう

< 補 足 >

★補足1 地域の地図について

地域の NPO が作成した地図や先輩たちの作品を見本として紹介すると完成イメージがもちやすくなります。見通しをもつことができると学習への意欲にもつながります。

図 すみだの SDGs マップ
(2018 墨田の魅力ほりおこし隊)



★補足2/3 教科等の学習と関連付けて行う例

< 1 時間目の前に >

社会科：身近な地域の調査（休業中の課題として写真を撮影してくるなど）

特別活動：通学路の安全調査（ハザードマップの読み取り）

< 1 時間目と2 時間目の間に >

国語科：「話す・聞く」インタビューをしよう 社会科：身近な地域の調査

英語科：「話す」外国の方への質問 特別な教科道徳：地域社会の一員として

< 2 時間目以降に >

国語科：「書く」キャッチコピーを考えよう 美術科：わかりやすく伝える「ピクトグラム」

社会科：身近な地域の調査まとめ、日本の地域的特色、地方自治「地域課題の解決に向けて」

JICA の「出前講座」を使って途上国の地域と比較してみても面白いかもしれません



他地域の学校と交流することで、
地域の特徴をより広く、深く知る、
考えることにつながります

★補足4【例】生徒の興味・関心や疑問からのテーマと講師（インタビュー先）→生徒の気付き

- ・商店街（商店街会長）→地元の人のコミュニケーションの場、イベントの実施、大型店舗との共存・競争、高齢者の増加、防災訓練等
- ・外国人観光客（観光協会職員）→SNSの活用、情報発信、外国語で書かれた看板、災害時の対応、文化の違い（マナー・ルール等）
- ・企業（広報担当者）→地域の一員としての役割、ものづくりを通じた環境保全、原材料の輸入、外国製品との競争、労働力不足
- ・交通網（駅職員）→通勤・通学の安全を守る取組、バリアフリー、LGBTQ
- ・桜並木、川（都市計画課職員・町会長）→地域の憩いの場、昔は水遊び、過去の氾濫、防災→環境を守る取組
- ・神社（神主）→歴史、祭礼の役割、地域の変化
- ・地場産業（農産物直売所や工場で働く方）→地域で働く人の工夫や努力、外国人労働者→障がい者の雇用
- ・世界遺産・日本遺産（観光協会職員・郷土史家・伝統工芸に携わる方）
→歴史を受け継いできた人々の思いや受け継ぐ取組、後継者不足

あくまでも例です。生徒の興味・関心を第一に、地域の実態に応じた講師に協力を依頼します。管理職からPTA役員や町会に問い合わせてもらったり、自治体に依頼したりすることができます

★補足5

実際に地域に出て地域の人からお話を聞くと、今まで見えてこなかった新しい発見があります。

魅力を再発見するのはもちろん、地域の課題も見えてくるでしょう。教師が答えを用意してしまうのではなく、生徒たち自身が自分たちの興味や関心に沿って主体的に調査できるようにすると、生徒たちが「ワクワク」しながら地域を「探検」できるかもしれません。

★補足6 講師との継続的な関わり

STEP4「課題の分析」の際にも助言をもらったり、STEP5「プロジェクト」の際に一緒に活動したり、発表会に招いたりすることで継続して学習活動に関わってもらいと、「社会に開かれた教育課程」を実現する第一歩につながります。



○参考資料

田村学・佐藤真久 監修

「探究×SDGs“地域の課題”解決のコツ～新聞記事を活用して“地域の課題”の解決に挑む～」

（朝日新聞社、2020年）

P56 図『複雑な社会課題の解決に挑戦する探究活動—WW型問題解決モデル』

【STEP 4】地域の課題を分析しよう

実施の目的：地域の課題同士のつながりを意識しながら、SDGsの視点で整理・分析し、アクションに結びつけるプランを考察する。

生徒の目標：地域の課題を整理分析し、アクションプランを考えよう。

* 事前指導：地域の魅力や課題を調べたレポートや新聞があるとよい。

* 準備物：付箋、3色以上の色ペン、模造紙、思考ツールワークシート

所要時間	活動内容
10分	自分たちが暮らしている地域にはどんな課題あるか考えよう。 【問い】 あなたが一番解決したい、地域の課題は何ですか？ (例) 自然災害、食品ロス、ごみ問題、多文化共生 事前に調べてきたレポートの中からキーワードを出す。 本日のめあてを伝える 地域の課題を整理分析し、アクションプランを考えよう。 【ワーク】 チームで解決したい課題を一つ決めよう。★補足1
30分～40分	SDGsの視点で地域の課題を整理・分析する 【ワーク1】 地域課題とそれに関連した問題同士の関係を考えよう。(10分) ・ブレインストーミングで付箋に書き出し、関連した問題同士の関係を考える。 ・ウェビングマップをつくる 付箋ではなく直接かきだしてもよい

所要時間	活動内容
30分～40分	【ワーク2】それぞれの問題が、環境・社会・経済のどれに関連しているか色分けをする。（5分） ※環境・社会・経済のバランスを保ちながら課題を解決する意識を持たせる。 ※マーカーなどで印をつけるなどする。 【ワーク3】マップの中で、チームで解決したい課題に印をつける（5分） (アレンジ) 3つの視点で分類も可能 ○個人で解決できそうなもの ○チームで解決できそうなもの ○外部と連携すればできそうなもの

所要時間	活動内容															
30分～ 40分	(追加) アクションプランを立てる * こちらは STEP5 とも共通するワークです 【ワーク4】課題解決のための具体的な方策を立てる。(10分) 高齢者が被害にあう可能性大 自分たちが調べたものを知らせる 避難経路の把握 学校の周りの避難経路や避難場所を調べる 防災に関する知識不足 それぞれの自然災害にはどんな避難方法があるのか調べる 防災グッズ すでに売られている防災グッズを調べる <table><thead><tr><th>いつ</th><th>どこで</th><th>どのように</th></tr></thead><tbody><tr><td>職業体験や地域の交流イベント</td><td>デイサービス 介護施設など</td><td>紙芝居・劇 チラシ</td></tr><tr><td>授業時間</td><td>実際に歩いてみる</td><td>かかった時間や経路の様子を調べる 市役所に聞く</td></tr><tr><td>授業時間</td><td></td><td>学校図書 インターネット</td></tr><tr><td>授業時間 放課後</td><td>地域のホームセンター</td><td>お店に行く</td></tr></tbody></table> 【ワーク5】「効果」×「実現可能性」の軸でアクションプランを整理する★補足2 高い 低い 効果 低い 高い 実現可能性 できる限りこの領域にあるものを選んで実践する	いつ	どこで	どのように	職業体験や地域の交流イベント	デイサービス 介護施設など	紙芝居・劇 チラシ	授業時間	実際に歩いてみる	かかった時間や経路の様子を調べる 市役所に聞く	授業時間		学校図書 インターネット	授業時間 放課後	地域のホームセンター	お店に行く
	いつ	どこで	どのように													
職業体験や地域の交流イベント	デイサービス 介護施設など	紙芝居・劇 チラシ														
授業時間	実際に歩いてみる	かかった時間や経路の様子を調べる 市役所に聞く														
授業時間		学校図書 インターネット														
授業時間 放課後	地域のホームセンター	お店に行く														
5～10分	本日の授業の学びを振り返る（感想・自己評価など記入） 例：「授業で学んだこと、感じたこと、これから調べてみたいこと」を記入 次回の予定を伝える															

< 補 足 >

★補足 1

前時で、すでに児童・生徒個人が「解決したい課題」を選べる状態であれば、アンケート形式で2～3つほど選んでもらう。

選んだ課題が似たもの同士をチームとして編成してから本時に入ってもよい。

本時は、地域の課題を整理分析するところからスタートできる。

★補足 2

児童・生徒の発達段階に応じて、4象限のルーブリックの難易度が高ければ削除してもよい。

○参考資料

1 探究×SDGs 地域の課題解決のコツ 新聞記事を活用して地域の課題の解決に挑む (asahi.com)

2 思考の手引き～整理・分析編～ | 一生使える探究のコツ (tankyu-skill.com)

3 環境省発行リーフレット

「持続可能な開発目標（SDGs）を活用した地域の環境課題と社会課題を同時解決するための民間活動支援事業」SDGsを使って、社会を変える。P12-P1-2 (geoc.jp)



【STEP 5】プロジェクトを考えよう

実施の目的：調査・分析してきた課題を地域や世界に還元する方法を考え実行することで自分と地域のつながりを広げる。また SNS 発信や既存の企画に参加することで自分と地域と世界をつなぎ、より多くのことを自分ゴト化する。

生徒の目標：SDGs の目標達成のために、自分にできることを地域や世界に発信しよう！

事前準備：Step1 ～ 4 の授業を経験した後に取り組んでください。

時間	学習活動
10 分	【問い】 今まで分析してきた地域や世界の課題を解決するために、どんなことができる？ ・ 1人でできることと、みんな（チーム）でできることで考える ★補足 1
10 分	プロジェクトを整理する 【整理する】 全体で意見をシェアし、整理する ・ 1人でできること 例) 既存のイベントに応募、参加する 地域のもの → 地域誌、市町村区の HP を見る ★補足 2 全国規模のもの → コンテストに参加する ★補足 3 学校に届く地域誌がヒントです 毎年恒例の企画が多く、募集時期が決まっているので、教員側が事前にいくつか把握しておくことがポイントです ・ グループでできること 例) SNS に発信する ★補足 4 イベントを企画する ★補足 5 講師やインタビューに協力してくれた人に企画書、提案書を送る ※国語との関連「手紙の書き方」 一見ハードルが高いように見えますが、学校説明会や保護者会、文化祭等で「生徒発表」という形で学校外の人に発信することでも十分つながりは広がります。Step3 でつながった人をイベントに招待することも視野に入れましょう。

時間	学習活動
15 分	プロジェクトを決定する 【決める】 取り組むプロジェクトを決める ・ 個人で取り組むか、グループで取り組むか決定する ・ 個人の場合 (既存のイベントに応募) は次回の授業までに経過報告を発表できるように個々に準備。 次の授業ではクラス内で意見をもらい、それぞれブラッシュアップする。 (応募締め切りまで授業があるだけ繰り返すことで、内容は深まります) ・ グループの場合は、どのような内容にするかそれぞれで検討会議。
10 分	個人、グループごとにこれから進めていくテーマを発表する ※個人かグループかによって、時間配分は臨機応変に行う

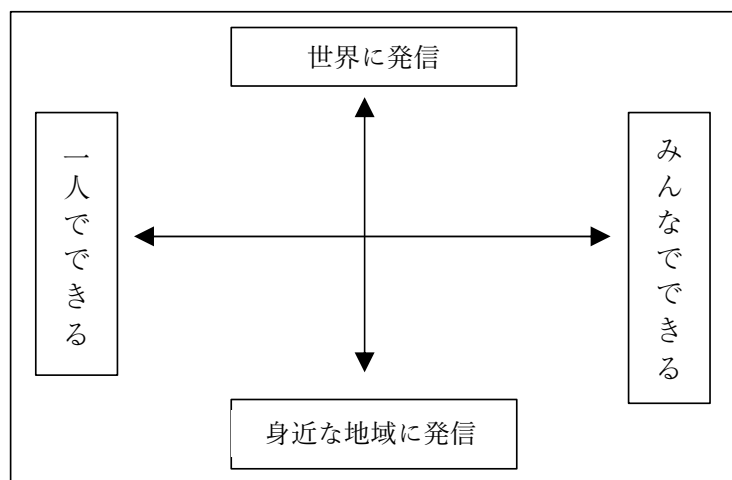
※プロジェクト実行後の振り返りは何より大切です。振り返りが次の行動につながります。

＜ 補 足 ＞

★補足 1

以下のような B4 用紙と付箋を用意。生徒は「できること」を付箋に書き、B4 用紙に貼っていく。
もしくは「できること付箋」をこちらで色々用意して、生徒はそれらを B4 用紙に貼っていく。

〈B4 用紙〉



〈用意する付箋の例〉

発表会を企画する	Youtube 動画を作成する	Twitter に投稿する	ワークショップを企画する
チラシを作って外で配る	ポスターを掲示する	イベントに参加する	新聞や雑誌に投稿する

★補足2 地域誌の例



★補足3 参考例

・ JICA エッセイコンテスト <https://www.jica.go.jp/hiroba/program/apply/essay/index.html>



・ 子ども世界平和サミット <https://peacepieceproject.com/cwps2021/>



・ KIRIN SCHOOL CHALLENGE <https://junec.gr.jp/kirin2020june/>



・ アートマイル国際協働学習プロジェクト <http://artmile.jp>

2020 年度応募作品▶



★補足4

文章、ポスター、写真など → 学校 HP、Facebook、Twitter への発信

動画制作 → Youtube

※あまり長い動画は見る人にも負担がかかるので、大テーマを設定し、その中で短い動画を何本も作ることをおすすめ。

内容、目的（何を伝えたいか）、対象者、公開設定（期間や公開の幅）、を決めます。

★補足5

対面開催かオンライン開催かを定める。

内容、テーマ、何を伝えたいのか（目的）を決める。

対象を決める。（小学生向け、地域の大人向け、校内の異学年向け etc）

イベントの形態を決める。（発表会、参加型ワークショップ、上映会、勉強会 etc）

★ JICA 授業実践 学習指導案 プロジェクト型授業案の紹介

「国際理解教育と商業教育の相乗効果 ～7年目のフェアトレード学習～」 敦賀 和芳 先生

https://www.jica.go.jp/hiroba/teacher/case/jhqv8b0000035bhz-att/other_12.pdf



「多文化共生を「自分ごと化」～探究的な方法を通して～」 三浦 学 先生

https://www.jica.go.jp/hiroba/teacher/case/jhqv8b0000035bhz-att/geography_history_01.pdf



○参考資料

ソーシャルアクションハンドブック作成チーム「Social Action Handbook」、
（開発教育協会 DEAR、2017年）

SDGs とはなんだろう？

世界の未来を変える 17 の目標

さまざまな要因から発生している貧困や飢餓、経済成長による格差の広がり、気候変動による異常気象、海や森などの自然環境の破壊や汚染、地域の紛争、感染症・・・

私たちの世界には解決しなければならない様々な課題が存在しています。これらをそのままにしておくと、世界は今より悪い方向に進み、人類が地球で暮らしていけなくなってしまうかもしれません。

2015年に国連で採択され、一致団結して2030年を目指してこの目標を達成しよう！という17のゴール（目標）が設定されました。この17の目標がSDGsです。SDGsはSustainable Development Goalsの頭文字で、日本語では「持続可能な開発目標」といいます。

誰ひとり取り残されることなくこの地球で暮らし続けることができるように、世界中で協力して解決すべき問題を整理し、具体的な目標を示したのが **SDGs（持続可能な開発目標）**



★さまざまな立場、一人一人のつながり

SDGsの達成には、先進国も途上国などの国単位の政府ばかりではなく、企業やNGO（非政府組織）・NPO（非営利組織）、農業などの生産者といった、さまざまな立場の人たちがつながりあって、取り組むことが求められています。

SDGs のプレゼン資料を作成しよう！

プレゼン資料の鉄則は… 〈ワンスライド・ワンメッセージ〉

1枚のスライドに複数のメッセージが込められていると、「結局何を伝えたいの!？」と聞く人は混乱してしまいます。

シンプルでわかりやすいプレゼンは、**1枚のスライド（ページ）にメッセージは1つしかありません。**
そのスライドで伝えたいことをたった1つのメッセージに絞り込もう！

【例】自分の好きなこと

NG スライド（文字が多く、画像がなし）

私の好きなことは・・・スポーツです。
そのなかでもサッカーが大好きです。
なぜなら、シュートを決めると爽快になるからです！

文字が多く、画像がなし…



NICE スライド

自分の好きなこと

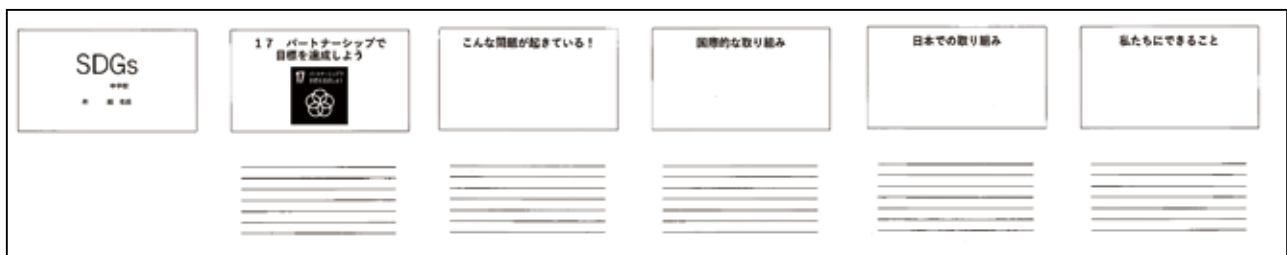
サッカーしている画像

説明はメモに書いておいて、発表する！

【調べること】

- ①自分が調べる目標を 17 の目標から選ぶ
- ②目標の内容を調べる（具体例 2、3 コを挙げるのがおすすめ）
- ③目標に取り組んでいる企業や団体、市町村などを調べる
- ④自分たちができることを考える

*イメージ図



【発表態度について】 次のことを意識しよう！

- (1) 話すスピード（聞き手が理解できるスピード。自分でゆっくりかな？くらいがちょうどいい）
- (2) 間の取り方（強調する言葉の前は、ためて話す。）
- (3) 声の大きさ（ごによごによと発表したり、小さな声では伝わらない）
- (4) 抑揚（×棒読み ○大事なところは強調する ○聴き手に訴えかけるように）
- (5) アイコンタクト（×原稿をジーっと見つめ読むだけ ○聴き手を見ながら）

身近な SDGs を見つけよう！



【課題について】

SDGs に関係すると思われる写真を1枚撮影してください！

①撮影者 ②撮影場所 ③撮影日 ④撮影した理由 ⑤SDGs との関係性について をメモすること

身近な SDGs を見つけよう！



- ①撮影者： _____
 ②撮影場所： _____ 自宅（新潟県阿賀町）
 ③撮影日： _____ 2020年10月4日
 ④撮影した理由や説明： 家の栗林でとれた栗と、近所からもらったさつまいも。気候変動や熊や猪の被害により、去年より採れる量が少なくなってしまったようだ。
 ⑤SDGs との関係性について： 2 飢餓をゼロに 13 気候変動に具体的な対策を 15 陸の豊かさを守ろう



身近な SDGs を見つけよう！

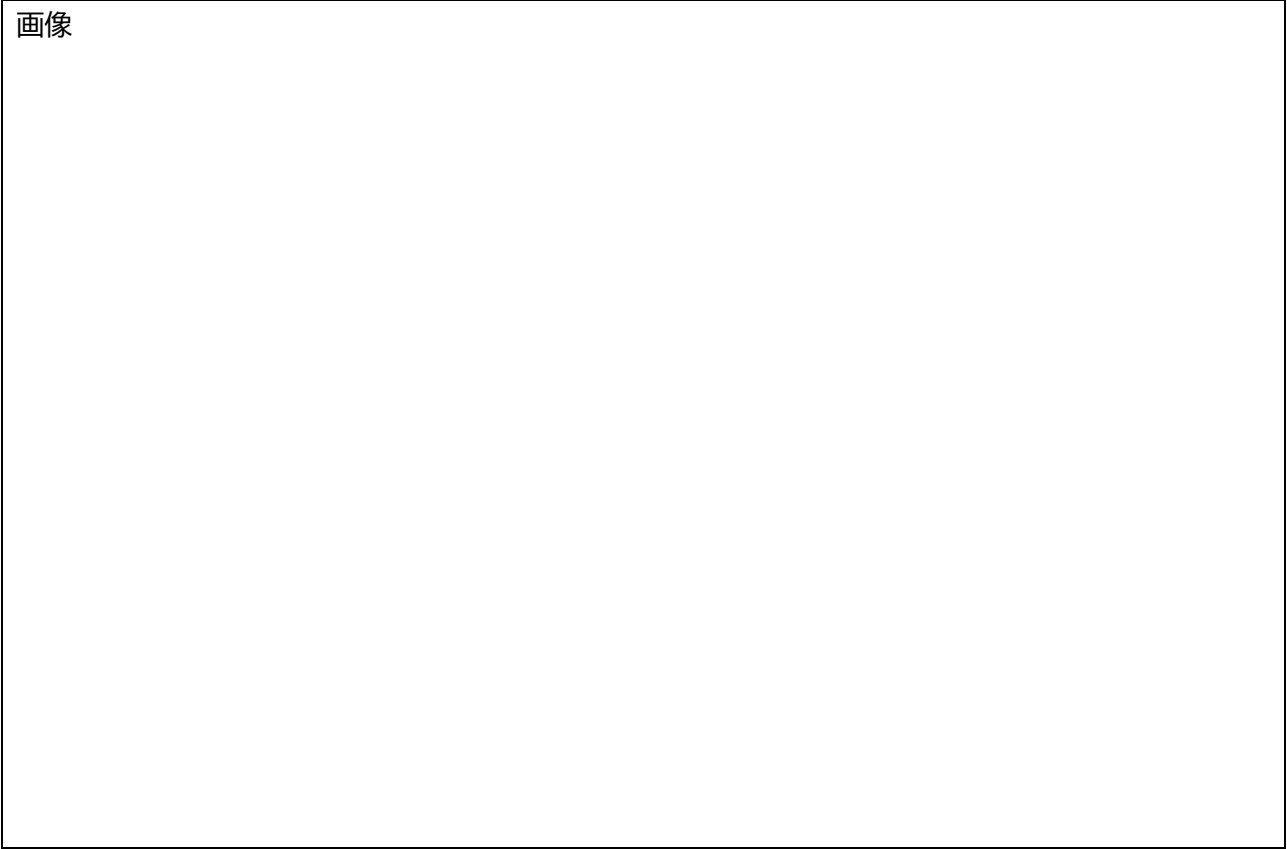


- ①撮影者： _____
 ②撮影場所： _____ 富士急ハイランド（フードコート）
 ③撮影日： _____ 9月2日
 ④撮影した理由や このストローはプラスチックではなく、紙でつくられていました。現在、海の海洋プラスチック問題が注目されているのでこの写真を撮りました。
 ⑤SDGs との関係性について： 14 海の豊かさを守ろう 15 陸の豊かさを守ろう



身近な SDGs を見つけよう！

画像



①撮影者： _____

②撮影場所： _____

③撮影日： _____

④撮影した理由や説明：

⑤SDGs との関係性について：
